

S S T K

144号

センター21通信

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

か なか か い め そ う かい
コロナ禍の中で3回目の総会。

ち ぢ か つ ど う い っ ぽ ふ っ か つ
コロナで縮んだ活動を一步步復活させたい。

2022年度センター21総会報告

5月21日（土）午前、上福岡西公民館集会室にて第22回定期総会をおこないました。新型コロナウイルス流行が収まらず、感染予防を図るために出席者は13名、委任状37人と、少人数で総会をおこないました。来賓も呼びませんでした。



議題は、21年度事業報告と同決算の承認、役員報酬の三つ。

事業報告では、①全部署ともコロナウイルス感染予防に気を遣い部署内感染を防いだこと、②コロナ禍の影響で、協働舎レタスの販売活動・喫茶店経営が不振だったこと、③くまのベイカーズが利用者の保護者死亡後の支援の経験を積んだこと、④ヘルパー不足で二人三脚の介護者派遣が落ち込んだこと。⑤計画相談支援をおこなっていた相談支援センター「あいぼう」を休止したことなどを報告しました。（3ページ以降参照）

決算書では、レタス、みどり荘の赤字が目立ち、次年度からの改善策が必要とされました。コロナ関連の行政の補助金がありながらも、全体としては106万円の赤字となりました。

例年ですと、議案書採択の後に、理事会で決まったこと（特に計画と予算）を発表するのですが、コロナ対策で時間を短縮するために、これを省略し、総会議案採択後、すぐ終了しました。来年こそは多くの会員に出席してもらい、活発な総会にしたいものです。

かみふくおかしょうがいしゃ し えん NPO上福岡 障害者支援センター21 令和3 (2021) 年度 じぎょうほうこく 事業報告

しょうがいしゃ けんじょうしゃ ととも い きる ちいきしゃかい つく り、 しょうがいしゃ じりつ お すす
障害者と健全者が共に生きる地域社会を作り、障害者の自立を推し進めるために、
い か、 じぎょう おこな
以下の事業を行った。

1、【社会参加支援】協働舎レタスは、就労継続支援B型事業所として生産活動、社会参加支援、創作的活動などを行った。定員30人のところ利用登録者27人、1日当たり21.2人の平均利用者数だった。職員は所長1人、常勤6人、パート5人、歩歩店員パート5人、事務パート3人(本部兼務2)。事業所報酬が前年より約25万円減、処遇改善加算が前年より約5万円減った。ふじみ野市より1カ所分95万円余りの家賃補助金と120万円の運営費補助金を受けた。

コロナ禍で感染を避けるために勤務時間をずらしたAB2班制をとる時期が長かった。猛暑を避けるためにサマータイム(7月～9月)もAB2班制に含まれた。

コロナ禍で生産活動による収入は、補助金を除いて2151万円となり、前年より213万円(11%)ふえた。工賃総額は、ふじみ野市の工賃補助金(57万円余り)とレタス事業会計よりの補助金(約10万円)を入れて635万円だった。時給は200円。工賃の平均額は1人当たり月22254円だった。

就労希望者の支援はコロナ禍で全くできなかった。

ボランティアの助けを借りて俳画の課外活動を行ったが、年度末に指導者が急逝され、中断している。

レクリエーション活動は少ししかできなかった。

第2レタスでは、調理場で菓子作りをおこない、「歩歩」店頭をはじめ、出張、注文での販売、作業所での直売をおこない、前年より69万円の増収となった。11月より歩歩全店が開いたが、コロナ禍で客足は戻らず喫茶収入は振るわない。



2、【社会参加支援】川越市の多機能型事業所くまのベイカーズは、生活介護9人、就労継続支援B型20人の定員。3人が入所し、一人退所。ひとり就職が決まった。利用登録者27人。1日当たり利用者数は24.2人。事業所報酬は4887万円(188万円増)。処遇改善加算金が320万円(14万円増)。強度行動障害に対応する職員研修を受けることで、加算が取れたことが収入増につながっている。

生産活動は、プルデンシャル生命保険(株)の特例子会社PGSJの菓子作りの包装部門

を受託した。自前の生産活動としては、調理設備を使い、PGSJ社員とベイクーズ利用者・職員の昼食(218回、8479食)を作り、また、弁当の出前(2605食)をおこなったり、出張販売(3か所)をおこなったりした。さらに委託を受けてペットフードの詰め合わせもおこなった。畑や田を借りて広げ、農作業をおこない、作物を販売したり給食の食材としたりした。近所に土地を借り、野菜のハウス栽培も始めた。上福岡駅前花壇の整備にも参加した。創作活動による作品をインターネットを通じて販売する試みも始めた。生産活動による収入は1603万円前で前年より252万円増え、工賃総額は71万円増えた。工賃の平均額は月21005円だった。

実習生を6人うけ入れた。

職員は所長1、副所長1、常勤3人、パート11人、調理員1人、非常勤看護師1人、パート事務員1名(兼務)。

イベントに参加できなかったため、ベイクーズで地域の方たちに向けてくまの市を1回おこなった。

グループホームやあいぼうと協力して通所者の生活支援を行った。



3、【自立生活支援】グループホーム第1ひまわり(川越市藤間、定員5名)、同サテライトホーム(川越市熊野町、定員1名)及び第2ひまわり(ふじみ野市鶴ヶ岡、定員5名)において、入居者が、心身ともに健康にそれぞれの日中活動(民間会社、作業所)にとり組めるよう支援し、また、適当な余暇を過ごせるよう援助した。

入居者・保護者と面談し、個別支援計画を作成し、見直した。

新型コロナウイルス感染については、①ヘルパーが陽性となり入居者1名が濃厚接触者になり、本人はホームで自粛、ほかの入居者は避難。②入居者の家族が陽性となり、本人は濃厚接触者となり、ホームで自粛。ほかの入居者は実家へ避難するかホームで本人と接触しないように過ごす。③世話人が陽性となり、自宅で療養。入居者は濃厚接触者ではなかったが通所先を休むなど、介護職員を限定して濃厚接触者たちの介護にあたった。何とかホーム内で感染者が広がらずに済んだ。

ほかにも、事故や高齢化やけがで、医療に頼る場合が増えてきていて、普段の健康管理に加えて、通院同行、入院援助、服薬援助をおこなった。

消防設備の保守点検、更新をおこない、防災訓練をおこなった。

休日実家でうまく過ごせない入居者、家族が入院した入居者や健康が心配な

入居者のために土曜日、日曜日にも泊り支援員や夕食作り支援員を入れる日を増やした。世話人3人、生活支援員24人。

一昨年のサテライトホーム入居者が生活習慣を乱し、言動も乱れたので、ひとり暮らしは難しいと判断し、通所先近くのグループホーム入居の話を勧め、4月に実現した。空いたサテライトホームにはPGSJの社員が入居した。

安全対策や見守りの強化などを他部署の協力を得て行った。

誕生会や花見を小規模で実施した。

第2 ひまわりの不動産購入に際して融資を受けた1200万円の返済(年間122万円)を始めている。

4、【自立生活支援】生活ホームみどり荘(ふじみ野市西)で入居者の生活全般の支援を行った。高齢の方もいるので健康管理に気を配った。幸いに新型コロナウイルスについては、感染者も濃厚接触者も出なかった。病院への同行や家族他関係者への連絡、ケア組織や行政との調整会議などをおこなった。

金銭管理が難しい人には小遣い帳の記入を助けたり、社会福祉協議会の安心サポートネットの利用を援助したりした。

転倒などケガの不安がある方が連休のときに介護施設を利用できるように調整した。グループホームひまわり世話人とともにローテーションを組んで入居者の世話にあたった。

ホーム合同の防災訓練、単独の避難訓練をおこなった。

誕生日会や旅行などのレクリエーションをおこなった。

感染症の流行に対し、スタッフや入居者の定期検温、手洗い徹底、除菌など予防に努めた。

世話人以外に生活支援員を配置し、二人体制を組んだ。

みどり荘の今後の運営について考えるため、生活ホームに近い介護者外部依頼型のグループホームについて、情報を集めた。

5、【介助者派遣】自立生活センター二人三脚は、在宅障害者のための介助者派遣事業をおこなった。障害福祉サービス(利用者41人)、移動支援(利用者33人)、生活サポート(利用者38人)に介護者43人(内常勤職員5人)が従事した。パート事務職員1名。

派遣時間実績は前年に比べると障害福祉サービスで10.9%減、移動支援で4.8%減、生活サポート事業で10.9%減、全体では1903時間減、金額では254万円減の62,165万円の収入だった。国からの介護・福祉人材処遇改善加算は1,222万円で165万円減。事業収支差額は557万円で、前年より38万円多くなっている。

一昨年度6月発覚した障害福祉サービス費の過大請求は、4月に狭山市へ17480円を返済したことで、7市町、総額2,954,234円の清算が終わった。

介護職員2名が退職し、1名がサポーターから正規職員に入職した。欠員1名の状態。

男性コーディネーターに斉藤勝男が就任した。

男女ともヘルパーの求人(正職・パート)に応募者が少なく、補充できなかった。

自立生活プログラム、講演会、上映会をおこなわなかった。

コロナウイルス感染拡大のため、介助の際の感染対策として、検温、手洗い、うがい、マスク着用を徹底した。サポーター講習会においてもガウンの着脱実践を含めて改めて学習した。国の補助金を受けて感染予防具等を購入し、PCR検査を受けた。

職員1名サポーター1名がコロナに感染したが、ほかの職員や利用者にも拡大することはなかった。

6、【計画相談支援】相談支援センターあいぼうで特定計画相談支援と障害児相談支援をおこなった。利用者は90人、担当者1名と補助者1名(週1日)でふじみ野市を中心として福祉サービス利用計画作成103件(前年より14増)とモニタリング247件(前年より60増)をおこなった。

利用者は身体障害者24人、知的障害者53人など。地区別では、ふじみ野市65人、川越市12人など。報酬は約516万円。

各種研修会、地域連絡会等に参加した。

ふじみ野市障害者相談支援センターに週1日あいぼう職員が出向した。

報酬額に比べて業務が過重のため、3月末をもって指定特定相談支援事業を休止した。

7、【啓発・提言】

①「センター21通信」を年4回発行し、国や県市の障害者政策をめぐる動き、センター21の動きなどを知らせたり、埼玉県への要望やそれについての話し合いの様子を伝えたりした。

② インターネット上での広報活動は、ホームページを作り直し、ツイッターも開設した。



8、行政への働きかけ

① 埼玉県障害者市民ネットワークに加盟し、要望書をまとめ、埼玉県に提出したが、

コロナ禍のために会合はおこなわれず、県からの回答書がとどいた。これについての意見交換会にリモートで参加した。

9、^{しょうがい} 渉外

- ① 部署ごとに社団法人埼玉障害者自立生活協会の会員になっている。
- ② 埼玉障害者市民ネットワークの会議や行動に少人数で、ないしリモート会議で参加した。
- ③ 市や町内会等の催し物やその準備委員会に参加しなかった。
- ④ 県庁内ショップかつぼの監事を引き受けた(代表)。
- ⑤ 川越市障害者施設連絡協議会にくまのペイカーズが参加した。

10、^{うんえい} 運営

- ① 5月(総会議案の検討、新年度事業計画及び予算の決定、監査報告、役員選任、代表役員報酬、夏季一時金、二人三脚職員表彰、本部事務所の開設、総会進行)と12月(上半期事業報告と上半期決算の報告、中間監査報告、冬期一時金支給、グループホームの修繕積立開始)に理事会をおこなった。
- ② 5月と12月に監事監査をおこなった。
- ③ 理事会の補助組織として日中活動運営委員会、共同ホーム運営委員会、二人三脚運営委員会を各2回開き、各事業の点検をおこなった。
- ④ 代表理事の補助機関として事務局会議を月2回おこない、事業の執行にあたった。
- ⑤ 国の介護福祉人材処遇改善加算(2047万円、前年より139万円減)を利用し、障害福祉サービスに係る職員、サポーターの給与の増額を図った。
- ⑥ 岸田内閣の看護・福祉労働者の賃上げ策「福祉・介護職員処遇改善臨時特例交付金」実施(2月～9月)が決まったので、申請した。職員5000円/月、時給職員40円/時のベースアップをおこなう。
- ⑦ 二人三脚職員(正職・パート)とひまわり夜間支援員の求人をおこなっているが、ヘルパーの応募が少ない。男性ヘルパーは全くなし。ひまわり夜間支援員はぼつぼつとある。
- ⑧ 2月職員全員を対象とした研修会を行った。第1部は鈴木光二理事による講演「福祉現場での虐待防止の経験。福祉で働くということについて」、第2部はペイカーズ・レタス・ひまわりでの支援事例の報告とグループワークによる検討。第3部が、あいぼう原所長によるセルフプランの作り方の説明。
- ⑨ 二人三脚、ひまわりより本部へ繰り入れをおこない、本部の人件費や退職金積立をおこなった。本部事務所は借りなかった。

無一人の職場 守りたい

障害のある人となない人が共に働く県庁内の売店「かつぽ」が閉店の危機に直面している。障害者の社会参加推進を目的に1997年に開店し、今年で25周年。障害者が施設外の人と接して賃金を得る貴重な場として活用されてきた。コンビニエンスストアの進出などを背景に店舗の売り上げは減少を続け、コロナ禍で財政が急激に悪化。店舗担当の板倉真紀さん(41)は「障害の重度に関係なく働ける場所として、何とかこの場所にあり続けたい」と切実な思いを語る。

(坂口菜摘)

県庁内障害者の店「かつぽ」

かつぽは県庁第二庁舎1階にア
援センターなどの施設で作った菓
ンテナショップとして営業し、食
品や飲料のほか、障害者が就労支
援センターなどの施設で作った菓
子や手芸品などを取り扱う。県内
の障害者団体や施設など10団体の
利用者や職員が日替わりの当番制
で店番し、県庁を巡回するワゴン
での販売も行う。県観光課が紹介
する県内の名産品の販売や、障害
者の県庁での職場体験事業を受託
するなど、県との連携も積極的に行
っている。



店舗からワゴンで商品を運び県庁職員に販売する利用者の13日、県庁

■ 便利なワゴン販売

店の当番となった就労支援セン
ター「夢燈(むとつ)館」(さい
たま市浦和区、桜区)利用者の木
村洗貴(ひろき)さん(39)と木村
美涼(みずす)さん(37)は、ワゴン
に商品に乗せて県庁内を巡回し
販売した。よく購入するといっ男

売り上げ増へ新商品模索



性職員は「小腹がすいた時に利用する。近くに来るので便利でありがたい」と話す。

洗貴さんは仕事について「大変なことはない。(ワゴンを押し)結構歩くのも大丈夫。苦手だったという接客も少し得意になったかな。(客が)来てくれないと寂しい」と言う。施設職員の三上綾子さん(41)は「作業所の中とは関わる人の多さが違う。それを楽しみにしている利用者もいる」と話す。

■ 弁当販売1日10個

2008年に県庁内にコンビニが開店し、周辺の飲食店が充実すると売り上げが減少。00年の販売当初は1日約1000個売っていたが、当初は10個ほどに落ち込んだ。店舗前に自販機を設置し一時売り上げが回復したが、県庁内の設置数増加により再び利用者が減少。店舗やワゴンの売り上げは最も落ち込んだ16年から回復したものの、人気商品の撤退などにより伸び悩んでいる。

するイベントの開催や、県事業の受託などで何とか危機を乗り越えてきた。しかし、新型コロナの流行で、職員の在宅勤務や、事業、イベントの中止が相次ぎ経営状況に追い打ちをかけた。板倉さんは「赤字が続いている。開店した当初は盛り上がりだったが、頭打ちの状態」と厳しい現状を語る。

■ 施設と違う刺激

店舗の売り上げによる運営には限界があるとし、新たな事業も開始した。名刺に点字を打つ「点字名刺」注文の受け付けを開始し、夜間勤務の多い県警の要望に応え24時間利用できる食品の自販機を今年5月に設置。新たなイベントの開催も検討中で、県障害者福祉推進課は「可能な限り支援していきたい」と話す。

かつぽの店番手当は1日1団体2千円と高くないが、板倉さんは「施設とは違う刺激的な場所として大事。最重度といわれる働くことから縁遠い人たちにとっても大事な場所」と意義を語る。「もつと利用してもらえよう、いろいろな商品を模索したい。仕事体験もできるので、障害のある人にぜひ活用してほしい」と訴えた。

【メモ】県庁内福祉の店・アンテナショップかつぽ―県庁第二庁舎1階、さいたま市浦和区高砂3の15の1。☎048・8330・7788。平日午前10時～午後4時。

2021年(令和3年)度 活動計算書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

特定非営利活動法人 上福岡障害者支援センター21

(単位:円)

科目	金額		
I 経常収益			
1 受取会費			
入会金	2,000		
正会員受取会費	162,000		
賛助会員受取会費	184,000	348,000	
2 受取寄付金			
受取寄付金(民間寄付金を含む)	166,559	166,559	
3 受取助成金等			
受取助成金	5,798,235	5,798,235	
4 事業収益			
障害者福祉サービス事業収入(居宅介護)	39,270,262		
相談支援事業委託	1,477,000		
移動支援事業収入	7,471,393		
介助者派遣事業収入(生活介護と現金利用)	3,204,410		
自立生活プログラム事業収入	0		
障害者福祉サービス事業収入(グループホームひまわり)	30,069,275		
障害者福祉サービス事業収入(特定計画相談)	5,157,390		
障害者福祉サービス事業収入(就労継続支援B型等)	126,622,138		
処遇改善事業加算	20,474,042		
自立生活支援事業収入(生活ホームみどり荘)	7,504,740		
啓発・提言事業収入	0	241,250,650	
5 その他収益			
受取利息	555		
雑収益	1,176,198	1,176,753	
経常収益計			248,740,197
II 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	157,020,602		
法定福利費	16,327,896		
退職金	412,000		
中退共	1,635,000		
福利厚生費	697,670		
人件費計	176,093,168		
(2) その他経費			
車両維持管理費	1,778,578		
旅費交通費	2,994,260		
講習会・交流会	49,687		
啓発提言	53,525		
原材料費	10,322,519		
研修費	194,400		
消耗品費	3,650,127		
保険料	1,114,856		
仕入費	6,776,425		
水道光熱費	4,768,937		
支払手数料	367,293		

科目	金額		
宅配送料	908,583		
販売費	73,948		
修繕費	1,095,787		
通信費	1,114,550		
備品購入費	350,063		
行政財産使用料	374,512		
租税公課	1,493,430		
催事・学習費	42,782		
家賃	13,878,310		
賃借料	156,260		
会議費	32,349		
諸会費	65,700		
交際費	15,000		
新聞図書費	41,736		
事務委託料	960,000		
支払利息	247,818		
給食補助金	1,716,600		
その他経費計	54,638,035		
事業費計		230,731,203	
2 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	7,066,363		
法定福利費	602,923		
福利厚生費	40,338		
人件費計	7,709,624		
(2) その他経費			
家賃	162,360		
旅費交通費	13,818		
講習会・交流会	0		
通信費	8,478		
消耗品	139,145		
会議費	61,649		
修繕費	20,570		
諸会費	10,000		
備品購入費	49,720		
保険料	17,700		
租税公課	1,324,100		
研修費	3,289		
新聞図書費	25,456		
支払手数料	374,626		
事務委託料	100,091		
減価償却費	9,187,357		
その他経費計	11,498,359		
管理費計		19,207,983	
経常費用計			249,939,186
当期経常増減額			▲ 1,198,989
法人税、住民税及び事業税	70,079		70,079
商品棚卸増減額	122,258		122,258
当期正味財産増減額			▲ 1,146,810
前期繰越正味財産額			177,204,698
次期繰越正味財産額			176,057,888

かみふくおかしょうがいしゃ し えん NPO上福岡 障害者支援センター21 令和4 (2022) 年度 じぎょうけいかく 事業計画

1、ふじみ野市の就労継続支援B型事業所協働舎レタスは、街の中に出て行く生産活動を中心とする。第1レタスでは、「ぼど」他のポスティング、パン等の出張販売、公園掃除、その合間にリサイクル品分解の内職をおこなっていく。

高齢化した人、判断能力の衰えが目立つ人などがいるので、個別に送迎をおこなう。経営改善のために、人件費を節約するとともに入所者を増やすよう、レタスの活動の宣伝に努める。

従たる事業所第2レタスでは、福祉喫茶歩歩4か所を出張所として位置づけ、菓子の製造、販売、喫茶経営を行っているが、コロナ禍以来喫茶店経営は思わしくなく、対策を考え実行していく。

2、川越市のくまのベイカーズは、障害福祉サービスの就労継続支援B型と生活介護の両事業をおこなう。B型定員20人、生活介護定員9人。強度行動障害者加算をえて、生活介護を充実する。

生産活動は、プルデンシャル生命保険(株)の特例子会社PGSJの菓子作り包装工程へ参加する。厨房、食堂スペースを生かした昼食作り、弁当の製造販売をふやしていく。ペットフードつめあわせの委託作業も続ける。農作業は畑、田んぼの面積を増やしている。

生活に関する相談や援助を随時おこなう。保護者の死亡等、家庭での介護が難しくなる人達のために、他部署や地域の支援施設と連携して援助していく。

就労支援としてPGSJに就職した人たちの相談に乗り、長く働けるように支援する。

3、グループホーム(介護サービス包括型)第1ひまわり(川越市藤間、定員5名)、同サテライトホーム(川越市熊野町、定員1名)及び第2ひまわり(ふじみ野市鶴ヶ岡、定員5名)において、入居者が、心身ともに健康にそれぞれの日中活動に取り組めるよう支援する。土曜、日曜の泊りを増やすなど支援員配置を増やす。世話人3名体制とする。サテライトホームの新入居者が定着できるよう、関係者と連携して支援する。

4、生活ホーム事業を行う。みどり荘(ふじみ野市西)において入居者の生活支援をおこなう。グループホーム世話人と連携していく。毎年の赤字経営を改善するとともに建物の老朽化に備えて、グループホームへの変更も含めて、今後の移転や運営方法について話し合っていく。

5、介助者派遣 自立生活センター二人三脚は、在宅障害者のための介助者派遣事業(居宅介護、移動支援、生活サポート)をおこなう。運転者の安全講習や車両点検を行い、安全な移送サービスを心がける。2023年6月までが現在の事務所の借用期限なので、移転先を探す。正職員の欠員補充、サポーターの高齢化に対処するため引き続き求人をおこなう。

7、本部
本部の財政を充実させ、本部事務所(旧あいぼう)を設け、事務局長を置く

2021年度活動報告動画の内容紹介

第1レタス

第1レタスは、普段の活動の様子を中心にまとめています。コロナ禍で長らく中止されていたイベントにも参加しているので、そのあたりときどき出てきます。定期的にボランティアさんに絵を教えたときの作品を展示する機会もあり、その様子も出てきますので楽しみに。



第2レタス



喫茶「歩歩」での一日の仕事の流れをまとめています。第2レタスへ出勤し各店舗で販売するクッキーを持って各店舗へ、店舗では掃除、看板やメニューの用意などの開店準備、営業中のコーヒーを入れたり、接客や店頭菓子販売の様子、食器類の洗い物や棚に収納する様子、閉店作業。その他イベント販売の様子です。



くまのベーカース

主にてくてく班で作製していたちぎり絵を、より有効活用、及び多くの人に見てもらうために、作品の画像を商品化できるサイト“suzuri”に登録し販売を始めました。



ホーム



みどり荘・第1ひまわり・第2ひまわり、それぞれのホームで利用者さんの食事作りを撮影しました。普段は支援員さんに食事を作ってもらっていますが、週に一回、月に一回と出来る範囲で夕食作りに挑戦しています。慣れなくても一生懸命作って美味しく食べている様子を見てください♪

二人三脚



二人三脚は、普段支援させていただいている利用者さん3名の介助の様子を撮影しました。

食事作り、入浴介助等の身体介護や利用者さんと一緒に部屋の掃除をしたり、移動支援でショッピングモールに付き添いで行ったりと、利用者さんの要望に沿って様々な支援をしています。

利用者さんが充実した日々を過ごせるよう、今後も利用者さんに寄り添い支援していきたいと思っております♪

第8回定期総会記念シンポジウム

新座という「地域で生きる・地域で暮らす」

5月29日(土)に(一社)埼玉障害者自立生活協会第8回定期総会記念シンポジウムが浦和コミュニティセンター第15集会室で行われました。

新座で活動しているNPO法人「にんじん畑」代表の斉藤 はつえさん、チーム「ちーこと」の百石琴菜さん・千純さんに、現在行っている活動についてお話ししていただきました。その後、コメンテーターで十文字学園女子大学の教授 佐藤 陽 氏にお二方の活動や今後の国の政策などについてお話しいただきました。

NPO法人にんじん畑代表 斉藤はつえさん

ポリオの影響で車椅子生活となる。小中学校時代の半分以上は入院生活を送る。学校卒業後、近所の幼馴染みが自宅でミシンを使った内職をしていて、そこに就職した。20代でまた入院したが、そこで障害があっても自由に生きている人たちとの出会いがあった。その後、結婚し、新座の福祉工場に就職。

公民館の料理教室で親しくなった方とたまたま入った東北コミセンで、障がい者自立生活講座に参加することになった。そこでは、障害者がたくさん集まっていたので、このまま解散するのはもったいないと、にんじん畑の前身の「自立を考える障害者の会」が立ち上がった。

その後、何年かして喫茶「ここ」を立ち上げ、来年30周年。そして、任意団体から法人格をとり、「にんじん畑」となった。

市からの委託で、生活サポート事業と移動支援事業を行い、地域交流事業でスルーネットピンポンというスポーツで視覚障害の方やそれに関わる人たちと交流している。

その他に、地域福祉推進協議会の委員をしている。新座では6つの福祉地域にそれぞれ地域福祉推進協議会があり、地域ごとに障害者と健常者が交流するイベントを積極的にを行い、定期的に情報発信をしている。

チームちーこと 百石琴菜さん・千純さん

双子の姉妹28歳。親元を離れ、二人暮らし。地域に拠点を置き、様々な活動している。



斉藤 はつえさん

チームちーこと

二人と一緒に活動したり、生活を支えている方々（ヘルパーさん、全身性の介助者、ボランティアの方、地域の人たちなど）が一つのチームとなっている。

日中は、バス停清掃・地域のイベントへの参画・小学校の登下校の見守り・議会の傍聴・地域福祉推進協議会など地域の会議への参加・市との話し合い等、様々な活動をしている。その他、近くの高校のボランティア部・幼稚園や保育園など、福島復興支援（新座ひまわりプロジェクト）を呼び掛けて交流をしている。

地域の活動に積極的に入り込んでいき、様々な人たちと関わっている。地域が障がい者を理解し、受け入れてくれる事で、障がい者が住みよい地域になるよう活動している。



百石 千純さん

斉藤さん、百石姉妹のお話の後、佐藤 陽 氏より、今後の国の政策の動向やお二方のように地域の人たちと関わることの重要性についてお話いただきました。

国の政策の動向

政策として、国は社会福祉法を改正し、包括的な支援体制を作っていく。重層的支援体制整備事業を創設し、各自治体が領域別な支援体制から子ども・障がい・高齢・生活困窮といった分野別の相談支援体制では対応しきれないような「地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズ」に横断的に対応していく。

重層的支援体制整備事業を担う自治体が包括的な支援体制を構築するために

1. 包括的な相談支援体制を作る。様々な問題に対し、それぞれ領域別に担っていた所が協同しながらどう支えていくのか。
2. 地域社会に参加していけるように支援する。
3. 地域づくりに向けた支援をする。そういった地域土壌を作っていくために、多くの方たちに理解をしてもらえるようにする。

予算配分は、従来の縦割りではなく、横断的に属性世代を問わない相談地域作り体制を作っていく。

自治体ごとの予算枠組みからすると、高齢や子供の問題



佐藤 陽 氏

が大きく、障害者は後回しにされてしまう現実の中で、私たちがきちんと声を上げてい
かないといけない。

国が地域共生社会の実現をうたい、障害の問題だけではなく、多くの人たちが住みよ
く暮らしやすくするために、社会福祉の制度の内容も変えていくと言っている。しかし、
そもそも障害の部分でも問題山積のところでは、はたしているんな人たちと全体でより
丁寧に行けるのかどうか、各自治体の力が問われている。地域を支える人たち、私たち
のようにNPOで取り組んでいる人たちと双方混じり合っただけでどこまでできるのか。

今、子供のNPOの人たちが居場所作りなどを行っています。そうしたものがどうつな
がりをもっていけるのか、施策として自治体がどういうビジョンを持つか、各団体が持っ
ているものをちゃんと協議する一つの土壌にどう乗せられるのか。

その中で、お二方の地域での活動で共通する地域福祉推進協議会という、ある意味
ろんな方が混じれるプラットフォームがありますので、そこが機能していくことが大事。

地域の人たちとの関わり

誰もが安心して地域で暮らすことを考えたときに、まずは社会保障の充実と経済的な
安定が担保されることが、すべての人に共通している。なおかつ、地域で暮らすとき
には、地域の共助・互助などの支え合いが必要で、それをベースに自分を知っている人・
認めてくれる人との人間関係を作る。

障害者の中では、身内で完結しがちだが、普段からいろんな人たちに助けをもらい、
人を巻き込んでいく。日頃から家族以外の人と関わりを持つことが重要。

お二方は関係者だけではなく、それ以外の様々な人たちとつながりを作っていく一歩
を自主的に生み出している。



きょうどうしゃ つうしん
協働舎レタス通信



きょうどうぼきんかい じよせい
【共同募金会より助成】

5月中旬、レタス調理場に新しい冷蔵庫とテーブル型冷凍庫が入りました。18年間、レタスのパン作りを支えてきた古い冷蔵庫・冷凍庫さん、お疲れ様でした。今回は埼玉県共同募金会から68万円の助成金を頂き、購入することができました。募金をしてくださった県民の皆さんに感謝です。



のし げんき けんこう
【★ふじみ野市 元気・健康フェア 2022★】

6月某日、ふじみ野市内の小学校やショッピングモールで、元気・健康フェアが開催されました！コロナ禍でしばらく開催されていなかったスポーツイベントに、市内に在住・在勤している老若男女たくさんの人たちがこぞ集まり、たくさんのスポットを巡っていました。うちのメンバーの中には、楽しみで仕方がなかった人もいたほどです(笑)



わたしたちが参加した会場は市内の小学校で、グラウンドと体育館にいくつもブースがあり、その中でチームに分かれて回りました。梅雨にさしかかる直前の猛暑に、身体が慣れていないため思うように動けない様子もありましたが(汗)、一生懸命に体を動かしていました！

全力で50mを走るメンバーの姿は、普段なかなか目にすることがないので新鮮でした！

だい ほうこく
【第2 レタス報告】

★アンテナショップかつぽフェアに参加しました。
第2レタスの商品 クッキー、マフィン、マドレーヌ、フィナンシェ、パウンドケーキなど販売し大変好評で、沢山の個数を用意しましたが、完売しました。



くまの新聞

※右の写真は、田んぼの様子。たくさんお米がとれるといいなあ。



今年も田植えをおこないました！

バイカーズでは毎年恒例となっている田植えを今年も行いました！みんな泥だらけになりながらも一株一株丁寧に植えていきます。

今はまだ小さな苗ですが、秋には大きくなって、沢山の米が実る予定です。くまの市での販売やお弁当での活用を予定しているので、みなさん楽しみにお待ちください！



工場見学を再開しました！

コロナ禍でなかなか行くことが出来なかった工場見学を、今年はやっと再開できました！

今年の行き先は群馬県にある「ガトーフェスタハラダ」というラスクの工場です。大きな工場では沢山の機械が働いていて、みんな感心しながら見学しました。そしてなんといつでも工場見学の醍醐味、出来立てラスクの試食！いつも食べているラスクはサクサクなのに、ここでしか食べられない生ラスクはしっとりジューシーでみんな驚きました！

ラスク工場のほかにも、「ららん藤岡」で、みんなでお昼を食べたり、群馬県に新しく出来た「めんたいパーク」で明太子を試食させてもらったり、とても充実した1日になりました。

また、ただ楽しいだけでなく、みんなが社会について学んだり他の工場を見ることで、クッキー工場でのお仕事のモチベーションをアップ出来たりと、貴重な1日になりました！



○5月の作業実績

- ・食事作り=17回(647食)、クッキー袋詰め=5,616袋、クッキー箱詰め=3,218箱
- ・お弁当配達=193食、ふじみ野市役所ロビー販売=4回実施(毎週火曜日)



ホームだより



そう のさんさく おはなみ
みどり荘ふじみ野散策・お花見

か こと にゆうきよしゃ みなさん そうだん こんねんど きんじよ こと
コロナ禍という事で、入居者の皆さんと相談して今年度も近所をお散歩するという事にしました。

まち みな がらあるく おはな あたらしく おみせ へんか
のんびり街を見ながら歩く。お花、新しくできたお店、いろいろな変化をみることができました。



なんていう品種でしょう？

ぼぼでおいしい
クッキーをおみやげ

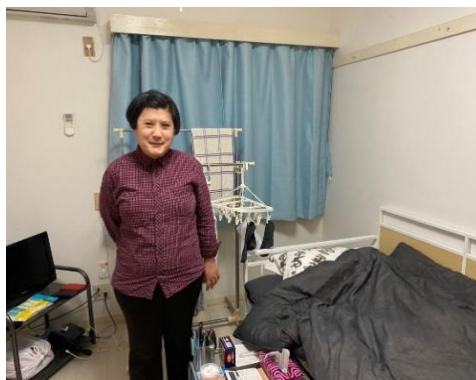
ひまわりサテライトホーム

にゆうきよ
サテライトホームに入居されたOさんです。

ひっこし ぶじおわりしんせいかつ
引っ越しも無事おわり新生活がスタート！

「おふろとトイレがせまいですが、ひとりで静かに好きな

ように生活できるところは気に入っています」



ホーム夜勤新たな支援員さんご紹介

ねんれいそう はば ひろい
年齢層の幅が広いので
ニューや話題をあわすの
が難しいです。宜しく
お願い致します

H・Sさん

ちようしょく こんだて なやんで
朝食の献立に悩んで
います。料理は好きな
ので頑張ります！

S・Hさん

急募！男性ヘルパー募集

～私の介助者を探しています～

☆狭山市在住の30代後半の男性
☆筋肉の疾患で、生活の全てに介助が必要です。
☆人工呼吸器を使用し、車椅子での生活です。
☆ときどきショッピングにも行き、電動車椅子サッカーの練習も楽しんでいます。

現在、火曜日の介助者を募集しています!!



募 集 要 項

勤務日	毎週火曜日 8:30～18:30
時給	1,330円
待遇	処遇改善手当 106円/時（※今年3月実績。業績により変動有り）、資格手当
資格	介護職員初任者研修修了者（旧ホームヘルパー2級） 重度訪問介護従事者養成研修修了者等
年齢	20代～60代 学生やアルバイトも歓迎!!
内容	食事介助、着替え、トイレ、体交、車椅子移乗、外出など日常生活全般の介助

★慣れるまでは、経験豊富な介助者と行います。安心して介助できるようになるまでしっかり研修しますので、未経験でも心配ありません。
一つ一つの介助は、回数を重ねて流れ・要領を掴めれば、スムーズに対応できると思います。

特定非営利活動法人 上福岡障害者支援センター21

自立生活センター二人三脚

〒356-0004 埼玉県ふじみ野市鶴ヶ舞 2-6-21

TEL 049-264-0990

E-mail ninin-sankyaku@k-center21.net

お知らせコーナー

今後の予定

7月	8月
8日 初任者研修	1日 かつぼ店番
11日 ふじみ野市市民活動 交流会準備会	13日～16日 日中活動夏休み
15日 協働者会議	19日 協働者会議
25日 地域就職相談会 川越会場	22日 かつぼ店番
25日 かつぼ店番	
30日 ホーム合同防災訓練	

埼玉県との総合県交渉

1日目 8月25日(木)
10時～16時30分
さいたま共済会館

2日目 9月5日(月)
13時30分～16時30分
埼玉会館

<目次>

2021年度センター21 総会報告	・	・	・	・	・	P1
2021年度センター21 事業報告	・	・	・	・	・	P2-P7
2021年度センター21 決算報告	・	・	・	・	・	P8-P9
2022年度センター21 事業計画	・	・	・	・	・	P10
2021年度活動報告ビデオより	・	・	・	・	・	P11-P12
シンポジウム「地域で生きる・地域で暮らす」報告	・	・	・	・	・	P13-P15
各部署報告	・	・	・	・	・	P16-P18
二人三脚介助者募集	・	・	・	・	・	P19
お知らせコーナー	・	・	・	・	・	P20

一緒に働いてみませんか

協働舎レタスは、パン・お菓子づくり・販売・チラシ配り・公園掃除・リサイクル品の分解・福祉喫茶「歩歩」などの作業を行っている日中活動の場です。

TEL 049-264-5497

E-mail letus@k-center21.net

編集後記

6月末に早くも梅雨が明け、猛暑が続いています。私は寒がりなので、夏は大好きですが、ここまで暑いとさすがに困ってしまいます。政府は、屋外でマスクを外すよう推奨していますが、なかなか浸透していません。コロナも心配ですが、熱中症も危険です。周りの迷惑にならない範囲で、マスクを外すことを考えないといけないと思う今日の頃です。

編集人 NPO上福岡障害者支援センター21

〒356-0004 ふじみ野市上福岡 4-6-11 イシデンビル1F TEL 049-264-5497

Fax 049-257-7510

ホームページ&メール <http://k-center21.net> 領価 100円

発行人 埼玉県障害者団体定期刊行物協会

川口市芝新町 15-9 アステール藤野 1F